

令和8年度入学試験問題

国語

(前期日程)

教育学部

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は9ページあります。
3. 解答用紙は4枚あります。すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入しなさい。受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
4. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入しなさい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁および汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

【一】 次の文章は、芥川龍之介の『ピアノ』の全文である。これを読んで解答用紙の設問に答えよ。

或雨のふる秋の日、わたしは或人を訪ねる為に横浜の山手を歩いて行った。この辺の荒廃は震災（注一）当時と殆ど変っていない。若し少しでも変わっているとすれば、それは一面にスレエト（注二）の屋根や煉瓦の壁の落ち重なった中に藜（注三）の伸びているだけだった。現に或家の崩れた跡には蓋をあげた弓なりのピアノさえ、半ば壁にひしがれたまま、つややかに鍵盤を濡らしていた。のみならず大小さまざまな譜本もかすかに色づいた藜の中に桃色、水色、薄黄色などの横文字の表紙を濡らしていた。わたしはわたしの訪ねた人と或こみ入った用件を話した。話は容易に片づかなかった。わたしはとうとう夜に入った後、やとその人の家を辞することにした。それも近々にもう一度面談を約した上のことだった。

雨は幸いにも上っていた。おまけに月も風立った空に時々光を洩らしていた。わたしは汽車に乗り遅れぬ為に（煙草の吸われぬ省線電車は勿論わたしには禁もつだった。）出来るだけ足を早めて行った。

すると突然聞えたのは誰かのピアノを打った音だった。いや、「打った」と言うよりも寧ろ触った音だった。わたしは思わず足をゆるめ、荒涼としたあたりを眺めまわした。ピアノは丁度月の光に細長い鍵盤を仄めかせていた、あの藜の中にあるピアノは。——しかし人かげはどこにもなかった。

それはたった一音だった。が、ピアノには違いなかった。わたしは多少無気味になり、もう一度足を早めようとした。その時わたしの後ろにしたピアノは確かに又かすかに音を出した。わたしは勿論振りかえらずにさっさと足を早めつづけた、湿気を孕んだ一陣の風のわたしを送るのを感じながら……

わたしはこのピアノの音に超自然の解釈を加えるには余りにリアリストに違いなかった。成程人かげは見えなかったにしろ、あの崩れた壁のあたりに猫でも潜んでいたかも知れない。若し猫ではなかったとすれば、——わたしはまたその外にも鼯だの墓がえるだのを数えていた。けれども兎に角人手を借らずにピアノの鳴ったのは不思議だった。

五日ばかりたった後、わたしは同じ用件の為に同じ山手を通りかかった。ピアノは不相変ひっそりと藜の中に蹲っていた。

桃色、水色、薄黄色などの譜本の散乱していることもやはりこの前に変らなかつた。只き^{ただ}ようはそれ等は勿論、崩れ落ちた煉瓦やスレエトも秋晴れの日の光にかがやいていた。

わたしは譜本を踏まぬようにピアノの前へ歩み寄つた。ピアノは今日のあたりに見れば、鍵盤の象牙^{ぞうげ}も光沢を失い、蓋^{うわす}の漆も剥落していた。殊^{こと}に脚には海老^{えび}かずらに似た一すじの蔓草^{つるくさ}もからみついていた。わたしはこのピアノを前に何か失望に近いものを感じた。

「第一これでも鳴るのかしら。」

わたしはこう独り語を言つた。するとピアノはその拍子^{たちま}に忽ちかすかに音を發した。それは殆どわたしの疑惑を叱つたかと思つた位^{ぐらゐ}だつた。しかしわたしは驚かなかつた。のみならず微笑の浮んだのを感じた。ピアノは今も日の光に白じらと鍵盤をひろげていた。が、そこにはいつの間にか落ち栗が一つ転がっていた。

わたしは往来へ引き返した後、もう一度この廢墟をふり返つた。やっと氣のついた栗の木はスレエトの屋根に押されたまま、斜めにピアノを蔽^{おほ}っていた。けれどもそれはどちらでも好^よかつた。わたしは只藜の中の弓なりのピアノに目を注いだ。あの去年の震災以来、誰も知らぬ音を保っていたピアノに。

(注1) 一九二三(大正一二)年に發生した関東大震災を指す。日本の近代史上、最大級となる地震災害の一つとされている。

地震の規模を示すマグニチュードは七・九。この地震によって、全半潰・消失・流失・埋没の被害を受けた住家は総計約三十七万棟に上つた。また死者・行方不明者は約十五万人に及んでいる。(関東大震災の被害規模については、内閣府のホームページの「令和五年版 防災白書 第一章 第一節 関東大震災による被害の様相」に拠つた。)

(注2) スレエトとは粘板岩のこと。主に屋根を覆うために薄板でできた石材を指す。

(注3) 畑の緑や空地などに自生する雑草。草丈は二メートルほどになる。

(本文は、千葉俊二・長谷川郁夫・宗像和重編『日本近代隨筆選2』岩波書店に拠る。本文の一部分にルビの表記を改変した箇所があるが、原文を尊重し、必要最小限の修正に留めた。)

この部分は現在著作権処理中です。

【二】 次の問題文 A と問題文 B を読み、解答用紙の問に答えよ。

■ 問題文 A

この部分は現在著作権処理中です。

この部分は現在著作権処理中です。

この部分は現在著作権処理中です。

（本文は、鈴木宏子『古今和歌集』の創造力』NHK出版に拠る。設問の都合上、文章の一部を改めた。）

■問題文B 次の文章は平安時代の日記文学『蜻蛉日記』の一節である。作者・藤原道綱母が貴族の妻の立場として思いを綴っている。問題文Aと関連させて後の問いに答えよ。

春うち過ぎて夏ごろ、宿直がちになるこちするに、つとめて、一日ありて、暮るればまゐりなどするをあやしう、と思ふに、ひぐらしの初声聞こえたり。いとあはれと驚かれて、

④ あやしくも夜のゆくへを知らぬかな今日ひぐらしの声は聞けども

といふに、出でがたかりけむかし。かくて、なでふことなければ、人の心もなほたゆみなく見えたり。

月夜のころ、よからぬ物語して、あはれなるさまのことども語りひてもありしころ思ひ出でられて、ものしければ、かくいはる。

⑤ 曇り夜の月とわが身のゆくすゑのおぼつかなさはいづれまされり

返りごと、たはぶれのやうに、

おしはかる月は西へぞゆくさきはわれのみこそは知るべかりけれ

など、頼もしげに見ゆれど、わが家とおぼしきところは、ことになむあんめれば、いと思はずにのみぞ、世はありける。さいはひある人のためには、年月見し人も、あまたの子などもたらぬを、かくものはかなくて、思ふことのみしげし。

(本文は、新編日本古典文学全集『土佐日記 蜻蛉日記』小学館に拠る。設問の都合上、文章の一部を改めた。)

【三】 次の文章を読んで、解答用紙の設問に答えよ。なお設問の都合により一部の表記を改め、訓点を省いた。

孟子謂^{ヒテ}齊宣王^ノ曰^ク、王之臣、有^{ラン}下^ニ託^{シテ}其妻子^ヲ於其友、而^{シテ}之^①楚遊^ブ者、比^{ンデ}其反^{ルニ}也、則凍餒^{セバ}其妻子、則^チ如^ク之何。王曰、棄^{テント}之。曰、士師不能^{ンバ}治^ハ、士、則^チ如^ク之何。王曰、已^ク之。曰、四境之内不^{ンバ}治^{マラ}、則^チ如^ク之何。王顧左右而言他。^④

(孟子「梁惠王章句下」『新釈漢文大系』4『孟子』明治書院による)

凍餒……「凍」はこごえる。「餒」は飢える。

士師……裁判長。

受験番号

4 の 2

採点二

受験番号

R8

国

語 四の二

〔解答用紙〕

(前期日程)

【二】

問題文 A

問 1 傍線①にある「心情表現の要となることば」を、本文の和歌1～3から抜き出し、平安朝の人々はどのようなきつかけで恋に落ちていたのかについて説明せよ。

問 2 傍線②の「心情表現と何らかの物象とを結びつける」は和歌の重要な表現の一つである。『古今集』の仮名序にある「やまとな歌は人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひ出だせるなり。」の内容を踏まえ、「心情表現」と「物象」とを結びつける理由について説明せよ。

問 3 傍線③について、本文の記述を適切に用いて「人」はどのように『古今集』の人間観を表わし、和歌の世界ではなぜそのような認識を持っているのかを説明せよ。

受験番号

4 の 3

採点
三

受験番号

R8

国

語 四の三

〔解答用紙〕

(前期日程)

【二】

問題文 B

問 4

傍線④の和歌を『蜻蛉日記』の作者が贈ったことにより、「人の心」はどのようなと語られているだろうか。【問題文 A・

問 3】と関連させて「人」が何を指すのかを明らかにし、和歌と日記本文にある表現を使って、『蜻蛉日記』作者が④の和歌で
伝えたかったこと、および「人」の反応について説明せよ。

問 5

傍線⑤の和歌の解釈について【問題文 A・問 2】と関連させて、「心情」と「物象」という二語を必ず使用して説明せよ。

問 6

傍線⑥について、「世」とは何を指すのかを明らかにした上で、なぜこのように作者が思っているか、前後の日記本文や
和歌の表現を使用して説明せよ。

受験番号

4 の 4

採点
四

受験番号

R8 国 語 四の四 [解答用紙] (前期日程)

【三】

問1 傍線①②の訓読を送り仮名まで含めてひらがなで答えよ。現代仮名遣いでも構わない。

① () ② ()

問2 傍線③王の回答「已之」を現代語訳せよ。

また、「已之」と答えた理由を説明せよ。

王の回答 ()

その理由 ()

問3 傍線④「王顧左右而言他」から読み取れる王の心情を本文の様子を踏まえて述べよ。

()